



平成27年度パネル展(会期：平成27年10月6日(火)～12月27日(日))

朝鮮王朝の城郭

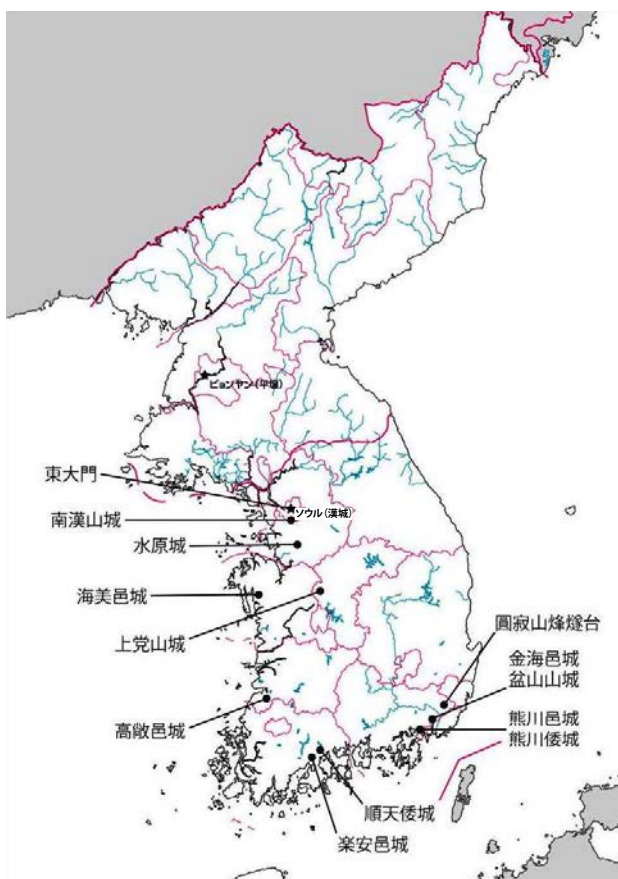
—朝鮮半島の文化遺産—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 朝鮮半島の文化遺産と城郭

玄界灘の海の道を通して九州と結ばれていた朝鮮半島には、古代以来多くの文化遺産が受け継がれています。これらは単に朝鮮半島の歴史のみならず、半島と交流のあった日本、そして九州の歴史を解明する上でも、貴重な資料といえます。例えば、三国時代の山城は、大野城や鞠智城と重なる部分もあり、当時の日本の山城に影響を与えていたと考えられます。

今回はそうした朝鮮半島の文化遺産から、朝鮮王朝時代(1392年～1910年)の城郭を取り上げます。この時期の城郭には、世界遺産となった都の城や離宮、集落を囲む邑城、山城や烽燧台、さらに朝鮮出兵の際に築かれた日本式城郭など、様々なものがあり、その中には現代まで残されているものも数多くあります。



朝鮮王朝時代各地の城郭位置図

2 都と離宮

朝鮮王朝の城郭の中から、まずはその都と離宮を見て行きましょう。

朝鮮王朝の都は最初、漢陽と呼ばれ、やがて漢城と呼ばれるようになりました。現在の大韓民国(韓国)の首都・ソウルの場所に位置する都城で、その周囲は18.6kmにわたって石築の城壁で囲まれ、東大門など4カ所の大門が設けられていました。また都の南には、守りの城として南漢山城が築かれます。この城は仁祖14年(1636年)の丙子の乱、つまり清の侵入の際に、国王の仁祖が一時的に逃れたところとして知られています。城壁に設けられた雉(馬面)や城内の建物群などが発掘調査されており、行宮跡の礎石建物の姿が明らかにされました。2014年にはユネスコの世界文化遺産に登録されています。

また、現在の京畿道水原市に残る水原城は、後述する邑城の一つですが、あわせて華城とも呼ばれる離宮でもあったと考えられています。城壁の南北2カ所には水門が設けられましたが、この門からは城内に川が流れる部分の城壁構造がうかがえ、大宰府の水城大堤の水門構造を考える際に参考となるでしょう。この水原城も、1997年に華城の名称で世界文化遺産に登録されています。



水原城の水門

3 邑城と烽燧台

朝鮮半島には、集落を城壁で囲った「邑城」と呼ばれる城郭集落が築かれていました。その数は半島全体で600カ所ほどあったといわれており、現在も史跡として残されているものもあります。

特に、全羅南道順天市の樂安邑城は、当時の様子をもっともよく残す史跡で、複数の楼門と城壁、さらに甕城おうじょうと呼ばれた枅形構造の城門が現在も見えます。城内は北半部が瓦葺きの官庁建物群、南半部がワラ葺きの一般住民の居住区でした。

また、忠清南道瑞山市に残る海美邑城も、正門にあたる鎮南門や城壁が残されています。この城壁は、成宗22年(1491年)の築造時は、周囲3200尺(1 km余り)近い規模でしたが、後に6600尺余りに拡大されました。そして城壁の外側には、現在は埋め立てられていますが、亥字がいじと呼ばれる濠がめぐってました。さらに内部の発掘調査では、官衙の大門・客舎などの建物跡や、陶磁器・瓦磚などの遺物が出土しています。

この他、現在でも門や城壁などが残る邑城として、全羅北道高敞郡の高敞邑城、慶尚南道金海市の金海邑城、慶尚南道鎮海市の熊川邑城などがあります。

また、これらの邑城の付近には、有事の際の逃げ城として、山城が築かれることもありました。たとえば海美邑城の北方約1 kmの山には海美山城が築かれており、現状は一部崩落しているものの、石築の城壁が見てとれます。さらに忠清北道清州市の上党山城は現在もその姿をよく残しており、城壁に設けられた城門や、雉(馬面)の様子がうかがえます。また金海邑城の逃げ城として築かれた盆山山城は、文禄の役(1592年)の際に小西行長軍が攻め込んでおり、日朝の戦場にもなりました。

こうした邑城や山城のほか、朝鮮半島各地には、のろしを上げる烽燧台ほうすいが600カ所前後も網の目のように張りめぐらされていました。朝鮮王朝時代の烽燧制度は世宗代(1418~1450年)に整備され、その後400年以上にわたって機能しました。慶尚南道梁山郡にはその一つ、圓寂山烽燧台の遺跡が残されています。

4 日本式の城郭—倭城—

朝鮮半島の城郭の大部分は、朝鮮半島の人々によって築かれてきましたが、一部には日本人が築いたものもあります。16世紀の末、豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄・慶長の役/壬辰・丁酉倭乱)の際、渡海した武将たちが築いた日本式の城郭で、「倭城」と呼ばれています。この倭城にも、現在史跡として整備されているものがあります。

たとえば慶尚南道鎮海市には熊川邑城がありますが、その付近には文禄の役のとき小早川隆景が築いた熊川倭城もあります。築城後は小西行長や宗義智が在番した城で、現在も石垣がよく残っています。また全羅南道順天市の順天倭城は、慶長の役のとき宇喜多秀家、藤堂高虎が築城した城です。この城には日本式の天守台があり、最近になって整備されています。

(執筆:名誉館長 西谷 正)

(編集:学芸調査室 渡部邦昭)

※展示・掲載の写真は、西谷正名誉館長の撮影によるものです。



海美邑城の鎮南門(左)と城壁(右)



甕城(枅形)構造を備えた金海邑城の北門

上党山城の城壁と城門



圓寂山烽燧台



順天倭城の天守台



編集 発行:平成27年10月6日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>